



きらめき朝日

朝日町立朝日中学校
学校だより

令和8年 8月 7日号

校長 大宮 裕一

～「あいさつと笑顔があふれ、表現力豊かな学校」をめざして～

～Ⅰ学期終業式～

暑さ対策のため、オンラインで実施した終業式において各学年の代表者三名が、「Ⅰ学期を振り返って」の言葉を立派に述べてくれました。その代表者三名の素晴らしい振り返りをご紹介します。

三年 鈴木 柚葉さん

一学期、私の心に一番残っている出来事は地区総体です。私は、大会前に大きなケガをし、試合に出場することができませんでした。大会に向けての練習中、仲間がコートを必死に走り、全力で声を掛け合ってプレーする姿を見るたびに、「私もみんなと一緒にバスケットがしたい」という気持ちでいっぱいでした。本当に悔しくて仕方ありませんでした。それでも仲間が一生懸命頑張る姿を見て、「最後までチームのためにできることをしよう」と前向きな気持ちになることができました。



試合当日も、ベンチから仲間を応援することしかできなかったのですが、仲間が全力で戦い続ける姿に勇気をもらいました。迎えた最終試合、短い時間でしたが、私も仲間と一緒にコートに立つことができました。シュートも一本だけ決めることができ、その一本には「これまで支えてくださったコーチや先生方、保護者の方々、そして仲間への感謝の気持ちを込めました。周りの人の存在の大きさを改めて感じました。同時に、今まで当たり前のようにしてきた練習や試合、大好きなバスケットができることは、とても幸せで、決して当たり前ではなかったと気づくことができました。

私たち三学年の一学期、いろいろなことがありました。「全員で修学旅行に行けたこと」、「友達と顔を合わせておはようと言えたこと」、「教室で授業を受けられたこと」、「くだらない話をして笑い合ったこと」、それらは決して当たり前のことではなく、とても幸せなことなのだと思います。すべて、一人ではできないこと、たくさんの人の支えの上に成り立っています。

感謝の気持ちを忘れず、夏休み中も受験生として勉強に励み、そして、二学期に控える二大行事や受験という大きな山に向かって、みんなで突き進んでいきたいと思っています。

二年 阿部颯二郎さん

まず、学年として変わったことは、二年生になって中堅学年になったことです。一人一人が「先輩」という自覚をもって、去年よりも気が引きしまったように感じます。けれども、まだまだ騒がしかったり、落ち着きがなかったりするところが先輩らしくないと思います。そういったところを直せるように協力して頑張っていきたいです。



次に、自分が成長したと思うことは、責任感が持てるようになったことです。野球では、一人が勝手なことをすると、みんなに迷惑をかけてしまいます。去年は、エラーが多くて、使ってもらえなかったことが多かったです。試合に出て、ポジションにつくという責任感があまりありませんでしたが、二年生になり新チームとしてレギュラーを取るために必死になりました。そうすると、自然に責任感が生まれてきました。野球以外の日常生活や学校生活でも、任された仕事に、今まで以上に責任をもってやることができました。

二学期は、体育祭や文化祭といった大きな行事があります。どれも協力しないとできないので、全力で力を合わせていきたいです。また、「自分に関係ない」ではなく、一人一人が責任をもって取り組んでいきたいです。

一年 浅岡 優作さん

中学校に入ってから、あっという間に一学期が終わりました。四月当初は小学校から中学校へのとても大きな壁を乗り越えられるのか不安でしたが、仲間とともにこの一学期を充実させることができました。

まずは、学習です。授業の内容が難しくなり、また、進むスピードも早いので、最初はついていくのが精一杯でした。特に、私は四月に風邪をこじらせ、数日間休んでしまったことがあり、授業に遅れてしまったのです。しかし、友達や先生が休んだ分を教えてくれたり、プリント類の説明をしてくれたりしたおかげで、先に進むことができました。一年一組は、授業の中だけでなく、休み時間でも教え合いの姿が見られます。それを継続させ、みんなで学習に真剣に取り組む学級でありたいです。

そして、生活面では、小学校の時から仲のよかった友達に加え、新しくできた仲間、新しい先生にも少しずつ慣れ、楽しい学校生活を送ることができました。一年生では、あいさつ・時間に対する意識・友だちへの言葉がけをがんばってきました。そうすることで、話を聴く姿勢がよくなり、会話もスムーズにできます。そうやって、みんなで話し合いを繰り返しながら、大変なことも楽しいことに変えることができたのだと思います。

二学期は、体育祭や文化祭もあります。仲間同士で助け合いながらさらに成長できるようにしていきたいです。



～PTA 教育講演会～

町立病院の 高橋 潤 院長 様を講師にお迎えし、「いのちの大切さ」と題した講演会を開催いたしました。総合診療専門医としての知見をもとに「病気ではなく人を診る」温かいお考えをお聞きし、この朝日町に素晴らしいお医者様がいらっしゃることを大変心強く、誇らしく感じました。総合診療は、ドラマの中だけのものではなかったという事実も改めて知ることができました。

講演の中でいただいた「いのちとは、人のために使う時間」という言葉は、生きる意味、働く意味、そして、人は一人では生きていけないということを改めて教えてくださいました。日頃から生徒たちに伝えている私たちの支援とも深く通ずるものがあり、教職員一同、大変感銘を受けました。



～スマホの使い方～

一学期終業式の校長講話で、生徒たちに「SNS と上手に付き合い、自分をコントロールする力を高める夏休みにしてほしい」と伝えました。近年、SNS をきっかけとした深刻なトラブルや不適切なサイトへのアクセス、さらには「闇バイト」の危険性など、子どもたちを囲むリスクは急速に広がっています。ご家庭におかれましても、この機会にぜひ、スマホや SNS の使い方についてお子様と「我が家のルール」を再確認いただければ幸いです。

また、式の中で、スマホの使用時間と学力との関係性についてもお話ししました。具体的にどのような内容だったか、ぜひご家庭でお子様からお聞きになってみてください。



ご家族の皆様にとって、安全で実り多き夏休みとなりますようお祈り申し上げます。